

## 編集後記

編集後記を執筆した10月29日、第84回日本公衆衛生学会総会（尾島俊之学長）が静岡市で盛大に開催されました。全国から多くの参加者が集い、充実したプログラムのもと各セッションで最新の知見を得ることができ、そして、全国にいる仲間との貴重な交流の場となっていました。また、会場に流れるピアノの音色等の音楽に心が癒されました。

72巻11号では、原著3編、公衆衛生活動報告1編、資料2編、特別報告1編を掲載し、高齢化社会の移動手段確保、地域医療連携、慢性疾患予防、健康危機管理等、公衆衛生の実践に直結する多角的な知見を提供しています。

稻益らは、地方都市の高齢者を対象に調査し、運転免許の保有が家事・買い物、社会活動、通院、送迎等の複数の私用目的の外出と有意な正の相関を示し、地方都市において免許返納後の代替移動手段の確保が急務であることを示唆しました。

吉見らは、大病院から診療所への逆紹介に対する患者の選好を評価する尺度PQR-19を開発し、逆紹介に応じた患者はPQR-19の全体スコアが有意に高く、特に治療継続性のスコアが高値であることを報告しています。

瀬戸らは、愛媛県の国保被保険者で特定健診の未受診者の新規人工透析導入率が、受診者と比較して約10倍高いこと、受診者に限定しても糖尿病が新規人工透析導入率と有意に関連する要因であることを示しました。受診率向上とハイリスク者の早期把握、重症化予防のための対策の重要性が強調されています。

COVID-19の対応に関する論文が3編掲載されています。山本らは、保健所DX推進の効果として、陽性者一人あたりの紙の使用枚数が削減し、療養開始までの平均所要日数が短縮したことを報告しています。DXの推進要因として、急速な感染拡大という社会情勢を背景とした管理職の意思決定や技術的支援等を挙げています。赤松らの全国の保健所長を対象にした調査では、最も有用だと感じたサポートは、保健師/事務職等の人的応援である一方、他機関や保健所長同士の情報交換は有用だと感じにくい傾向があり、双方向のコミュニケーションの重要性が示唆されています。井口らの委員会報告では、行政保健師の離職意図が10年前と比較し有意に増加し、同時にバーンアウトが上昇し、ワーク・エンゲイジメント

## 次号予告（第72巻・第12号）

### 原 著

青森県の職域における歯科保健指導の有効性に関する一検討：歯科疾患の一次予防を中心とした生活歯援プログラムの展開

伊藤瑠美、他  
電動カート導入による高齢者の主観的变化と要介護リスクの関連：1年間の縦断研究

渡邊良太、他

### 資 料

iPhone歩数グラフ画像の提供による身体活動調査の回答者特性：横断研究 森まりも、他  
全国市区町村の保健師を対象とした産後うつ病

に関する学習ニーズ調査 武井勇介、他

### 特別報告

公的データを用いた多面的な健康格差のモニタリングの必要性と可能性の検討

高田碧、他  
公衆衛生人材の育成に関する英国からの学び：  
公衆衛生看護のあり方に関する委員会活動報告

蔭山正子、他

トが低下していることを確認しています。これは、長期間の危機管理対応が保健師のキャリア継続に深刻な影響を与えていている可能性を示唆しています。

たばこ対策では、姜らが加熱式タバコ使用者の尿中コチニン評価において、簡便で低コストなELISA法が高精度なLC-MS法と高い相関を示すことを検証し、大規模な疫学調査や職場の喫煙対策への有用性を示しました。

日本公衆衛生雑誌は、エビデンスの創出を目指す基礎研究、現場での活動を詳細に報告する公衆衛生活動報告、そして具体的な施策へと繋がる実装研究など、公衆衛生活動の質を高め、その成果を社会に普及させる研究や活動を掲載しております。皆様の積極的なご投稿により、知見が次の実践を生み出す力になることを心より願っております。

（平野美千代）